

## 第4回県民会議の結果（案）

### 1. 開催状況

- ・日時：平成29年9月30日（土） PM1:00～5:00
- ・会場：沖縄県市町村自治会館 4階 第4～6会議室
- ・参加者数：申込者21名中15名出席
- ・参加者内訳：在住地域（北部6名 中部3名 南部6名）、性別（男12名 女3名）  
年代（20代3名 30代1名 40代2名 50代5名 60代4名）

#### (1) ルート案の比較評価結果について

##### 1) 共通意見（2班以上の共通意見）

- ① 県民は自動車利用に慣れているので、整備なしの所要時間は、バスやモノレールのサービス水準の高くない現在の公共交通ではなく、自家用車・レンタカーで移動した場合と比較した方がわかりやすい。（井上先生まとめ発表。1, 2, 4班共通）
- ② 「60分で移動可能な圏域内人口」で評価を行っているが、説明がないと理解できない。（全班共通）
- ③ C案及びC派生案が、他ルート案よりも採算性が良いことが分かった。（全班共通）
- ④ 鉄軌道の利用者数は、国道58号ケースよりも国道330号ケースの方が多いいことに気づいた。（1, 3班共通）
- ⑤ 自動車から公共交通への転換量は、どのようにして算出したのか。（1, 2班共通）

##### 2) その他の主な意見（各班の発表の際に述べられた意見）

- ① 那覇～各主要都市間の所要時間は、7ルート案であまり差がないことが分かった。また、整備なしの場合と比較すると、移動時間が短縮されていることが分かった。
- ② 公共交通の利用者数は示されているが、自動車も含めた全体の移動者数に占める割合も示された方がわかりやすい。
- ③ 過去に沖縄で実施された大規模事業による景観の変化を例に、どのくらいまでのインパクトであれば許容できるかを把握してみてもどうか。
- ④ 事業費の6,000億円が、多いのか少ないのかイメージできない。
- ⑤ 今後は、鉄軌道の運営をどのようにして黒字にしていくかを考えることが必要。
- ⑥ 公共交通利用者数の変化において、国道58号を通過してどのようなルートで軍用地跡地を通るのがわからない。
- ⑦ 比較の基準となる「整備なしの場合」のグラフが、一覧の一番右にあり、分かりづらかったので、「整備なしの場合」を一番左に（最初に）表示した方がわかりやすいのではないかと。
- ⑧ 主要都市までの所要時間算出や60分圏域、主要観光地の設定について質問があった。
- ⑨ 公共交通利用者は各ルート案で大きな差がないことがわかった。
- ⑩ 公共交通利用者が5～6万人いるならば道路混雑が緩和され、道路の有効活用が検討できる。

- ⑪ 上下分離方式の詳細な説明を聞いてみたい。固定資産税など事業費を見込まなくてもよい項目があるのではないか。
- ⑫ 予測を行った際の根拠の数字も合わせて公表したほうがよいのでは。

(2) 鉄軌道が利用されつづけるために大切なこと、鉄軌道導入とあわせて必要な取組について

1) 共通意見 (井上先生がまとめの発表で述べられたもの。または、3班以上の共通意見)

- ① フィーダー交通の整備が重要だと考える。(井上先生まとめ発表。1, 2, 4班共通)
- ② 観光の面で、魅力的な鉄軌道づくりが必要である。観光客に目で楽しんでもらう区間などを検討した方がよい。(井上先生まとめ発表。2, 4班共通)
- ③ 子どもや車いすの方も一人で切符を買えたり、乗り降りできたり、誰でも利用しやすいユニバーサルデザインに対応した駅や、車両、駅から学校や病院へのアクセスの整備が重要。(井上先生まとめ発表。1, 3, 4班共通)
- ④ 住民参加型の市町村での公共交通に関する取組、駅周辺のまちづくりの推進が必要。(井上先生まとめ発表。1, 2班共通)
- ⑤ 駅の近くに車、自転車を止められる駐車場及び駐輪場が必要。(2, 3, 4班共通)
- ⑥ 全国で利用できるSuica、ICOCA等のICカードが使えるようにする。観光客も便利になる。(2, 3, 4班共通)
- ⑦ 駅や乗り継ぎ施設は、暑さ対策、雨対策が必要。(1, 2, 3班共通)

2) その他の主な意見 (各班の発表の際に述べられた意見)

- ① 案内板等について、多言語表示するなど充実化が必要である。
- ② 県民が安いと思える運賃設定、交通弱者に対する割引制度が必要。
- ③ 駅ビルの中に病院や保育所などの施設を設置し、利用客を増やす。また、観光客の利用しやすさを考慮して駅ビルを整備する。
- ④ 駅までの安全確保など交通弱者の意見を踏まえて検討する必要がある。
- ⑤ 地域性を活かしたデザインやラッピング車両など観光客に魅力ある車両づくり。
- ⑥ バス等との乗り継ぎをしやすくする取組が必要。

### (3) 計画策定後（計画段階以降）の検討プロセスについて

#### 1) 共通意見（井上先生がまとめの発表で述べられたもの、または、3班以上の共通意見）

- ① これからも引き続き、具体的ルート、起終点、駅位置、フィーダー等の検討に関わっていきたい。（井上先生まとめ発表。全班共通）
- ② 駅周辺のまちづくりなど市町村の取組に関わっていきたい。（井上先生まとめ発表。1, 4班共通）
- ③ 鉄軌道の関係委員会を傍聴したい。（1, 2, 3班共通）
- ④ 計画の進捗について鉄軌道ニュースや、新聞、Webサイト等で教えてほしい。（2, 3, 4班共通）

#### 2) その他意見（各班の発表の際に述べられた意見）

- ① フィーダー交通は鉄軌道がなくても取り組める課題であり、市町村を動かして取り組んで行くべきである。鉄軌道の駅中心にフィーダー交通を考えると、取組が遅れると思う。
- ② 公共交通をもっと知ってもらうことが必要。
- ③ 具体的にルートや交通システムを決定する際など、県民会議の代表数名を参加できる機会を作ってほしい。
- ④ フィーダーとしてという意味で、那覇から MICE 地区までの LRT を国道 329 号上に走らすことを真剣に考えて欲しい。そのためには採算が見込めるということをチェックして欲しい。
- ⑤ 県民会議の参加者から何名か、関係機関等意見交換会に参加させるべき。
- ⑥ 新聞やネットでアンケートなど意見をいえるような仕組みがあるといい。